

## 福田一志さんの思い出

永 嶋 豊

確か平成8年10月だったと思います。福田さんと初めて会ったのは。生まれも育ちも長崎市である私は、東日本大震災で被災地となった東北の地方都市の大学で考古学を専攻し、その後、特に職に就くわけでもなく、フリーターとしてその街で暮らしていました。そんな私に旧瑞穂町での発掘調査の機会を与えて下さったのは、文化課の高野晋司課長補佐でした。

長崎県考古学会長の正林護先生と私は旧瑞穂町の陣ノ内遺跡の調査を行うこととなりました。大学の研究室の狭い範囲での調査しか知らなかった私は、正林先生をはじめ周囲の皆さんに支えられながら、どうにかこうにか日々調査を進めた記憶があります。正林先生が、小値賀町の遺物整理で不在となる時、長崎県文化課の課員の方、特に福田さんが良く調査指導に来て下さいました。海に面した「ふれあい会館」に正林先生や福田さんと宿泊し、当時の瑞穂町教育委員会の職員鈴木稔さんと夜は焼酎を飲みながら、いろいろなお話をするのが日課でした。福田さんは、別府大学での学生時代の話や就職してからの話などを、いつも面白おかしく話してくれたのを覚えています。

平成9年7月に私は長崎県文化課で嘱託調査員（文化財調査員？）として働くこととなりました。そこでも福田さんはいい先輩であり兄貴のような存在でした、相変わらず楽しくて面白くて、でもたまにつまなくて…、もう最高でした。嘱託仲間の東貴之君と荒木伸也君、職員の川道さんや甲斐田さん達、昔の思い出は美化され過ぎかもしれませんが、なんか今思えばすっごい楽しかったよなあと思えます。

その後旧深江町の山ノ寺梶木遺跡の調査を、福田さんと共に行うことが出来ました。確か島原の港のこの港旅館だかって、ここに一緒に泊まりました、福田さんが電話帳で安いとこ見つけてくれて。歩いて島原の街ブラブラしたり、夜は宿のご飯の時にビールで乾杯したりとか、これも楽しい思い出ばかり。モチ魚の煮付け出たよなあとかって今でも思い出せます。調査は昭和の調査区を確認して、遺跡の内容を確認することが目的でした。調査が終わった後は、一緒に港で釣りしたり、諏訪の池まで遠征してバス釣りしたり。福田の兄貴とのとてもいい時間でした。

役所の仕事が終わった後は、なんて名前だったかなあ長崎駅前の鯛料理の美味しいお店、ことぶき？そんな感じのお店で、皆で飲んだり。土曜日は西海考古の集まりで顔合わせたり、女の都の新居の引越しのお手伝いも少ししたような。

その後、私は平成10年4月に青森県教育委員会採用となり、故郷を離れることとなりました。茂木の料亭二見での送別会では、トイレに立ったとき、福田さんが寄ってきてくれて、饞別をいただきました。なんか照れくさくて、冗談言いながら、いただいたような記憶があります。嬉しかった。

私も青森生活十数年となりますが、なんとなく正林先生や福田さんとの陣ノ内遺跡の調査が原点なんだろうなあって思っています。ちょっと考古学に後ろ向きになりかけていた、フリーター時代。考古学の楽しさを教えてくれたのもあの頃のいろんな方だろうと思います。当然、福田さんからは、たくさん笑いをいただきました。福田さんは仕事で苦しい時も多くあったのだろうと思います。そんな時も我々後輩には優しく、努めて楽しく接してくれていたような気がします。福田さんの笑いのオーラに癒されたあの日々を忘れることは出来ません。私、長崎での臨職時代を度々想いながら、日々東北地方の文化財保護にあたっています。福田さん、ありがとうございました！